

その他
《議題6関係》

- 鳥衝突防止計画ガイダンス
(更新案)の改正要旨

鳥衝突防止計画ガイダンス(更新案)の改正要旨

ページ	項目	内容
P.15	2.1 鳥衝突防止対策検討会 【過去の検討会概要】	第17回(平成30年度)の要旨を追加
P.20	2.3 現地対策研究会 【現地対策研究会における効果等】	秋田空港(平成30年度)の要旨を追加
付録2	問題鳥種と主な対策	問題鳥種として1種類(⑱ ヒヨドリ)を追加

2.1 鳥衝突防止対策検討会

	実施日	概要・提言等
第17回 (追加)	平成31年 2月19日	<p>東京国際、北九州、中部国際および鳥取空港における鳥衝突防止対策の取り組み状況について報告が行われました。</p> <p>複数の空港におけるレーザー光線を用いた防除機器による鳥の追い払いの検証結果について報告を行いました。</p> <p>秋田空港における現地対策研究会の概要およびハチクマの生態に係る基礎調査について報告が行われました。</p> <p>鳥種特定調査結果の報告、次年度の鳥種特定実施計画の承認、鳥衝突防止計画ガイダンスの更新案の承認が行われました。</p> <p>委員より、「我が国では、鳥衝突により航空機が墜落するような深刻な事案は過去1件も発生していないが、鳥衝突件数が減っても、なお重大事故が発生する可能性は十分にある。引き続き対策を講じなくてはならない」と意見がありました。</p>

2.3 現地対策研究会


空港名	時期	直接指導や助言等
秋田空港 (追加)	H30年 9月	<ul style="list-style-type: none"> ● 鳥の出現状況について分析できるよう収集すること。 ● 連絡協議会を強化すること。 ● 国の施策や取り組みを利活用すること。

問題鳥種と主な対策

我が国の空港周辺において航空機との衝突件数が多く、また衝突時、大きな損害を与え問題となる鳥類について、種名、分布、生態等について記載します。なお、各鳥種の行動等は、空港の地形特性、周辺環境、気候により様々であり、対策を講じる上で、継続的な観察によりその特徴を理解することが必要です。また、ここに列記した以外の鳥種についても、航空機の遅航に影響を及ぼす可能性は否定できず、空港毎に鳥相を判断し、文献等によりその生態を調査、理解することが望ましいです。

《掲載鳥種》

1	トビ
2	ミサゴ
3	チョウゲンボウ
4	マガモ
5	カルガモ
6	スズガモ
7	カワウ
8	アオサギ
9	ウミネコ
10	セグロカモメ
11	コアジサシ
12	カワラバト
13	カラス類
14	ヒドリガモ
15	ケリ
16	ハヤブサ
17	キジバト
18	ヒヨドリ

種名	<p>スズメ目 ヒヨドリ科 ヒヨドリ (<i>Hypsipetes amaurotis</i>)</p>  <p>(出典)真木広造(2003)日本の野鳥590(平凡社)</p>
分布	<p>日本では留鳥または漂鳥として、北海道から沖縄までごく普通に見られる。7亜種の分布が知られる。</p>
形態	<p>体の大きさ(サイズ):雌雄ほぼ同じ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体重60～75g ・全長約28cm ・翼長12～14cm <p>色彩:雌雄同色</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尾は長めで体はほっそりとしている。 ・体全体が灰色で、尾は黒褐色をおび、頬は栗褐色をしている。くちばしは黒く、足は暗赤色。 ・南方の亜種ほど褐色が濃くなる傾向がある。
生態	<p>生息環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林や里山にすることが多いが、まとまった木がある公園や街路樹のある市街地などでも生息している。 <p>習性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市街地、都市のビル街でも子育てをする。 ・秋の渡りの季節には数十～数百羽の移動群となることがある。 ・繁殖期には番(つがい)になって、木の枝に10～20cm程のお椀型の巣を作る。赤褐色の斑点があるピンクの卵を3～5個産卵し、2週間程のメスによる抱卵を経て孵化する。 <p>食性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昆虫をはじめ果実、花蜜など、食性の幅は広い。 ・非繁殖期の餌は果実(柑橘系、センダンやイイギリ、カキ、ヘクソカズラなど)がほとんどであるが、繁殖期には昆虫類を多く捕食する。
空港内の行動	<ul style="list-style-type: none"> ・樹林性の鳥であり、空港の草地を利用することは希である。 ・空港の周囲に林などがある場合、空港を横断移動することがある。 ・衝突するのは主に秋の渡り時期の群れと考えられる。
防除対策	<ul style="list-style-type: none"> ・渡り途中の群れを防除することは極めて難しい。群れの飛来が続くようであれば、ヒヨドリの飛行ルートを変える努力が必要となる。 ・当面の対応として航空機の運用時間に合わせた追い払いが考えられる。空砲および煙火による追い払いに加え、実包を織り交ぜる。 ・例年、恒常的に大群が通過する場合は、航空会社など関係者への情報提供を検討する。
リスク評価	<ul style="list-style-type: none"> ・個体重量はさほど大きくないので、1個体が衝突した場合は機体の損傷程度は比較的軽いと思われるが、群れで衝突した場合、重大な航空機損傷事案を引き起こす可能性も想定されるため、注意を要する種である。
特記事項	